

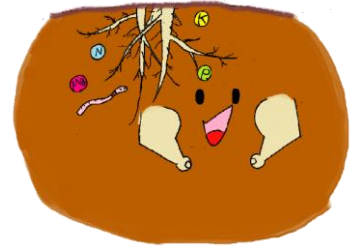
## VII 農業者の取り組み（現地事例）



### 別海町中西別地区：Bさんの事例

#### 土壤分析に基づく肥培管理でおいしい草を！

○Aさんは、窒素・リン酸・カリの3要素と併せて、硫黄・マグネシウム・ナトリウム、そして微量元素のホウ素・マンガン・銅・亜鉛のバランスにも気を配り肥培管理を行っています。



イラスト原図 K.Ogawara



○牧草が良好に生育できる土壌をつくることで、雑草の侵入を最低限に抑え、草地更新を行わない管理を実践しています。

○最終的に「牛の口に届くまで」を意識して、土づくりからその後の草づくりまでこだわっています。

**pH値は全草地  
5.8～6.5を維持！**

#### 【目的】

- ①栄養価や嗜好性が高く、牛がよく食べる草を作ること
- ②量・質ともに優れた草を作ること

#### 【土づくりのポイント】

○毎年土壤分析を行い、施肥設計に基づいて微量元素も含め足りていない要素を施肥（基肥・追肥）により補う

#### 【草づくりのポイント】

○飼養頭数に見合う管理できるだけの草地面積を、きちんと維持する

○チモシーの出穂始ごろに刈り取りを行い、予乾での水分率の目安は60%以下にする

○夜間は牧草が呼吸で糖分を消費しているため、刈取りは午前10時以降に行う

○また、雨天後は光合成を行う時間を半日以上、確保してから刈り取る

○ラッピングを8重巻にし、ロールバールの気密性を高める



土壌が柔らかく“根張り”の良い草地